

公益財団法人 J F E 2 1 世紀財団
2017 年度 事業計画書

I. 大学研究助成および大学教材・鉄鋼関連出版物の作成・寄贈事業
(公益目的事業 1)

ア 技術研究助成 (公募)

当財団は 1990 年 12 月の設立以降、26 年間にわたり一貫して「21 世紀における創造的発展をめざす鉄鋼産業及び関連産業に資する技術研究への助成」を主要な事業として継続し、リーマンショック及びその後の円高によって財団収入が減少した時期も含めて、毎年 20 件の助成を維持してきた。2013 年度以降は運用環境の好転に恵まれたため、助成件数を 20 件から 25 件に増加した。

2017 年度についても引き続き比較的高い運用収益が見込めることから、2016 年度並みの 25 件の助成を継続する。

(1) 助成金総額 : 50,000 千円 (2,000 千円/件×25 件)

(2) 助成対象者 : 日本の大学と公的研究機関に常勤する研究者
国籍不問、直近 3 年の受領者は非対象

(3) 助成対象研究 :

・鉄鋼技術研究 : 鉄鋼材料、鉄鋼製造プロセス及び副産物の有効利用を対象とする基礎、
(13±3 件程度) 応用技術の研究。鉄鋼に関係する計測・制御・分析等の関連技術の研究を含む。

・地球環境・地球温暖化防止技術研究 : 地球環境保全と地球温暖化防止を目的とした技術開発を
(13±3 件程度) 対象とするエンジニアリング (工学) に関する基礎、応用技術の研究
合計 (原則) 25 件

(4) 公募期間 : 2017 年 4 月下旬～6 月下旬 (約 2 ヶ月間)

(5) 審査・選考方法 : 理事会にて選任した技術研究助成審査委員 13 名の合議により、助成対象候補者 25 名を選考し、その審査報告に基づいて理事長が決定し、10 月初旬までに公表する。

(6) 助成金交付日 : 2017 年 12 月中旬

(7) 研究期間 : 2018 年 1 月開始。原則 1 年間 (1 年間に限り延長可)

(8) 研究報告 : 1 年間または 2 年間の研究期間終了後、財団に研究報告書を提出する。

これを 2018 年度または 2019 年度の「技術研究報告書」に掲載し、研究成果を公開する。

【2017 年度の課題】 鉄鋼技術研究の応募が 2016 年度に急減したことから、募集要項の改善ならびに募集要項の送付先、送付時期の見直しを行う。

イ アジア歴史研究助成（公募）

2005年度から開始したアジア歴史研究助成は、「21世紀アジアに共存共栄するための日本の産業と文化の Vision 構築に資するアジア歴史研究への助成」としてアジア研究者の間で定着し、2017年度で13年目となる。2012年度までは助成件数を7件としてきたが、2013年度から技術研究助成同様、助成件数を7件から10件に増加した。

2017年度についても、2016年度と同様10件の助成を継続する。

- (1) 助成金総額：15,000千円（1,500千円/件×10件）
- (2) 助成対象者：日本の大学と公的研究機関に常勤する研究者
国籍不問、直近3年の受領者は非対象
- (3) 助成対象研究：アジアの歴史を対象とし、21世紀アジアと共存・共栄するための、日本の産業と文化の Vision 構築に資する研究
- (4) 公募期間：2017年4月下旬～6月下旬（約2ヶ月間）
- (5) 審査・選考方法：理事会にて選任したアジア歴史研究助成審査委員4名の合議により、助成対象候補者10名を選考し、その審査報告に基づいて理事長が決定し、10月初旬までに公表する。
- (6) 助成金交付日：2017年12月中旬
- (7) 研究期間：2018年1月開始。原則1年間（1年間に限り延長可）
- (8) 研究報告：1年間または2年間の研究期間終了後、財団に研究報告書を提出する。
これを2018年度または2019年度の「アジア歴史研究報告書」に掲載し、研究成果を公開する。

【2017年度の課題】 審査委員の菊池ICU教授のご提案で、ICUアジア文化研究所との共催で、助成研究者主体のシンポジウムを開催する企画があり、大学に採択された場合には協賛金を負担する（MAX20万円）。

ウ 大学教材・鉄鋼関連出版物の作成・寄贈

- (1) 2006年度に作成刊行し、大学に寄贈した「大学教材 鉄鋼工学（材料編）、(プロセス編)」は、刊行から10年経過し、その間の技術進歩を反映して改訂する必要があることから、JFEスチール(株)スチール研究所殿に改訂の労をお願いしたところ快諾頂いた。2016年9月から編集委員会が組織され改訂方針の検討を進めている。2017年度中に改訂原稿の執筆・編集を終え、刊行を目指す。
- (2) 財団のホームページで公開している鉄鋼関係の図版、イラストは、鉄鋼研究者の間で報告書作成等に自由に活用でき好評であるが、作成時点から時間が経ち陳腐化しているものも見受けられるため、最新の技術を反映した図版、イラストに更新して行く。
- (3) 上記を進めつつ、次年度以降に具体化する新たな刊行物の企画・検討を並行して進める。

いずれの大学教材・鉄鋼関連出版物も、全国の国公立大学、高等専門学校材料系学科を始め関係諸機関に寄贈する他、一般の希望者にも寄贈する。

以上の予算として、1,220 万円を計上する。

科目	予算額(千円)	費目
通信運搬費	200	寄贈配送料
印刷製本費	5,000	印刷製本費
諸謝金	3,000	監修・執筆料
委託費	4,000	作図、デザイン等
合計	12,200	

II. 文化振興事業（公益目的事業2）

ア 鉄鋼に縁のある地域への貢献

音楽、美術、伝統継承（囲碁・将棋・芸能）、町おこし、コミュニティ活動、文化財保存の活動など地域社会の文化活動に協賛金を授与する。

【2017年度の地域別協賛事業】

地域	協賛事業	金額 (万円)	備考
千葉	趙治勲杯囲碁大会	100	
千葉	千葉県少年少女囲碁連盟	50	
千葉	千葉市音楽協会（千葉市民音楽祭他）	100	
川崎	MUZA ランチ&ナイトコンサート	50	
川崎	ふれあい祭り	150	
横浜	トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	50	
半田	はんだふれあい産業まつり	150	
半田	はんだ山車まつり	250	5年に一度の開催
三重	三重県高等学校ロボット競技大会	100	
倉敷	倉敷音楽祭	250	
倉敷	白壁倉敷将棋フェスタ	100	
福山	福山ばら祭	200	
福山	芸能大全～まつりの世界～	120	
中国	嘉興市（浙江省）浪漫桜祭り	100	
その他	上記の趣旨に適合する公益的活動	180	理事長の承認により執行
合計		1,950	

イ 海外子女文芸作品コンクールへの協賛と文集の寄贈

- (1) 公益財団法人海外子女教育振興財団が主催する「海外子女文芸作品コンクール」に協賛する。
(50万円)

- (2) 「海外子女文芸作品コンクール」の優秀作品を掲載した文集「地球に学ぶ」の作成費を負担し、鉄鋼に縁のある地域の小中学校、図書館等に寄贈する。(約 2,200 冊)
(寄贈先小中学校、図書館等の所在市町村)
千葉、川崎、半田、武豊、津、倉敷・近郊 3 市町村、笠岡、福山

以 上